

感謝するレーサーたち

text by Shinji Ishii
文いししんじ

本格的レースシーズン到来前の三月、今年の春も、鈴鹿サーキットへいつてきた。恒例のイベント「ファン感謝デー」。7歳のひとひはこれが3回目だ。

11時ごろ到着すると、スタンドはほぼ満員。コース上では往年のF1チャンピオン、ジェンソン・バトン選手が、ホンダ・シビックの限定モデルType Rに乗りこんだところ。ノーマルの市販車なのに、ホンモノのレーサーがアクセルを踏みこんだ途端、獣みたいに牙をむきコーナ―へ突っこんでいく。

ジャン・アレジ、という名前にききおぼえはないだろうか。デビュー戦で、天才アイルトン・セナに堂々と渡り合った、若き真っ赤なフェラーリ使い。日本のタレントと結婚したことでも知られているが、そのふたりの愛息ジュリアーノが、いま、F1ドライバーをめざし、ヨーロッパのサーキットで奮闘してい

福の絶頂にいる人間が座っている。それは考えてみればけっこう希有なことだ。

イベント2日目、ひとひは抽選に当たり、スーパーフォーミュラのデモレース前、マシンの停止位置を示すボードを持ってコース上に立つ、「グリッド・キッズ」をつとめることになった。ストレートを進んでくる、ゼッケン20番の銀色のマシン。降りてきたのは、昨年度スーパーGT年間チャンピオン・平川亮選手だ。必死でボードを支えるひとひに、長身の平川選手は若馬のように歩み寄り、やはりいっしょに写真を撮ってくれた。ひとひのモータースポーツ好き度は、また一段階、音をたてて上がった。

大トリは、伝説の対決「星野一義VS中嶋悟」。昨年まで10戦し、中嶋さんが6勝、星野さんが4勝。本年度の初日は、「日本一速い男」星野さんが「日本一はやすぎる」フライングを決めて勝利。そして2日目も堂々のフライングを決めて勝ち、これで戦績は6勝6敗のタイになった。

が、中嶋さんがシートからおりようとしな
い。「おもしろくない」「納得いかない」との
ことで、延長戦がその場で決まった。最後の

る。この日はジャンとジュリアーノふたりが
新田のフェラーリに乗り込み、親子馬のよう
に和やかに鈴鹿の土地を駆けた。

うちのひとひは幼い頃から乗物が好きで、
ひよんなことから雑誌「オートスポーツ」で
毎号イラストまで書いているから、そのあた
りで見聞を決め込んでいるおとならより、よ
ほどモータースポーツに詳しい。ふりかえつ
てみるに、4歳でこの「ファン感」に来て、コー
ス裏のパドックに、自由に出入りさせてもらっ
たことが大いに影響している。出番を終えた
スーパー耐久のドライバーたちがおおぜい、
チームをこえて冗談をいいあつたりレース談
義を交わしたりしていた。そこに、

「こんにちはー！」
と4歳児が割り込んでいき、
「このクラッチ、どれくらいおもしろいん？」

レースは、なんと中嶋悟が堂々のフライング。
追いついた星野とデッドヒートとなり、最後
は中嶋が先輩・星野を押さえ込んで勝った。
ふたりが何歳だろうが、もはやそんなことは
どうでもよかった。ひとひも含め、この日鈴
鹿サーキットに集った5万人は、太陽暦でも
太陰暦でもなく、サーキットの周回をからだ
に刻みこんで生きているのだ。

「ほしのさーん！ かつこいー！」
ひとひがスタンドから身を乗りだす。星野
さんには2年前、握手してもらい「いいか、
一にべんきょう、二にべんきょう、なにがな
んでも、べんきょう、だぞっ！」と訓示をもらっ

などと話しかける。レーサーたちは例外な
くまじめに受け答えしたあと、ひとひを抱き
かかえ、ドライバーズシートに座らせて、いっ
しょに写真を撮ってくれた。みな、こどもが
モータースポーツを好きでいてくれることが、
嬉しくてしょうがないみたいだった。ほかな
らぬ彼ら自身が「モータースポーツ好き」な
こどもだったのだから。そして20代、30代に
なつたいまも、あいかかわらず「モータースポ
ーツ好き」のこどもなのだから。

ツナギを脱げば絶対、いろいろと苦労はあ
るだろう。けれども、少なくともサーキット
にいるあいだ、レーサーたちの顔はみな晴れ
やかな光に輝いている。セッティングが決ま
らないことなど悩みのうちに入らない。サー
キットでいま、レースができる、この一点だ
けで、彼らは1000パーセントの幸福のな
かにいる。目の前を、咆哮をあげて突っ走る
すべてのレーシングカーに、ひとりずつ、幸

たことがある。

「みなさん、ほんっとーに、ありがとうござい
ます！」

宵闇のなか、人間のかたちをした鈴鹿サー
キットが、いま深々と頭をさげている。みな、
レースを生きている。自分をここまで運ん
でくれた巨大ななかに、全身で感謝しな
がらレーサーは、今日も風を切り、アクセル
をギリギリまで踏みこむ。



三重県鈴鹿市

面積：194.46km²
総人口：196,557人(推計人口 2017年10月1日)
人口密度：1,011人/km²
市の木：ケヤキ
市の花：サツキ



Profile

1966年大阪生まれ。
京都在住。
著書に小説「ぶらんこ
乗り」「麦ふみクーツエ」
「ポーの話」「みずうみ」「四
とそれ以上の国」など、
エッセイ「人生を救え！」
(町田康共著)「熊にみえ
て熊じゃなし」「選い足
の話」、絵本に「赤ずきん」
(ほしよりこ絵) など多数。

